

956-16

昭和45年度 自昭和45年4月1日
至昭和46年3月31日

事 業 報 告

決 算 報 告 書

財団法人 日本常民文化研究所



956-16

昭和45年度事業報告・財産目録・貸借対照表・損益計算書並に損益処分案
は次の通りであります。

昭和46年5月31日

財団法人 日本常民文化研究所

理事長 有 賀 喜左衛門

理 事 桜 田 勝 徳

” 渡 沢 雅 英

” 杉 本 行 雄

” 中 山 正 則

” 宮 本 馨 太 郎

” 宮 本 常 一

” 山 口 和 雄

監 事 高 木 一 夫

” 小 宮 山 若 木

目 次

- (一) 事 業 報 告
- (二) 貸 借 対 照 表
- (三) 損 益 計 算 書
- (四) 財 産 目 録
- (五) 損 益 金 処 分 案

(一) 事 業 報 告

昭和45年度は、「民具辞典」の800項目にたいする執筆依頼が一部を除いて終り、原稿作成はかなり遅れているが約160項目がすすんでいる。

「民具論集3」の編集を終ったが、事情により刊行は46年8月の予定で進行している。なお、常民文化叢書はこのほか「越後南魚沼民俗誌」(渡辺行一)も編集を終え、7月刊行の予定。

「民具マンスリー」は増頁による3巻が終了し、「論集」とともに、一おひ定着したと考えられ、民具の調査研究あるいはその組織化に役割を果たした。

青梅市および周辺地区民俗緊急調査(文化庁委託)は、実施機関である青梅市より調査班編成を依頼され、44、45両年度にわたって、それぞれ多摩川水系、荒川水系の集落の調査を完了した。報告書は青梅市により46年秋に発刊の予定。

地方郷土博物館所蔵民具の「資料化」は、愛知県北設楽郡津具村、津具郷土館について、撮影、計測、聞取りを行った。

956-16

貸借対照表

昭和45年度

昭和46年8月31日現在

勘定科目	公 益 部		收 益 部		合 計	
	借方(資産)額 金	貸方(負債)額 金	借方(資産)額 金	貸方(負債)額 金	借方(資産)額 金	貸方(負債)額 金
什	70,000				70,000	
有価証券	39,691,100		266,668		39,691,100	
預金	2,855,968		10,647		3,122,681	
現金	9,204				19,851	
元入金	5,827,830				5,827,830	
基金		800,000				800,000
通常財産		41,761,100				41,761,100
積立金		3,129,889				3,129,889
出版準備積立金		600,000				600,000
繰入金			2,666,218		2,666,218	
元受り				5,858,749		5,858,749
預り				13,615		13,615

2,370,000			1,500		1,500
	188,850			2,558,850	
	900,000			900,000	
50,824,097	4,026,888		5,873,864	54,850,980	52,164,853
					4,533,108
	1,846,981			1,846,981	
50,824,097	5,873,864		5,873,864	56,697,961	56,697,961

昭和45年度

財産目録

昭和46年3月31日現在

公 益 部			
資 産 之 部			
什 器	70,000円	書棚・事務机・椅子類	445,000円
有 価 証 券	39,691,100円	清水建設	5,270株
		新日本製鉄	150,000株
		東京ガス	35,000株
		東京電力	3,000株
		日新製鋼	30,000株
		山一ファミリー	500口
		山一公社債	1,500口
		不動産銀行朝債	額面400万
預 金	2,855,963円	第一銀行銀座支店	定期預金
		協和銀行吉祥寺支店	"
元 入 金	5,827,830円	収益部運営資金として元入	普通預金
負 債 之 部			
基 本 金	800,000円	第一銀行銀座支店	定期預金

通 常 財 産	1,761,100円	清水建設株式会社株券	2,000株	(評価) 300,000円
積 立 金	3,129,889円	資産之部上掲・什器・有価証券		
出版準備積立金	600,000円	既往年度の益金繰入れ		
		益金中より創設		
収 益 部				
資 産 之 部				
預 金	266,668円	協和銀行吉祥寺支店	普通預金	249,149円
繰 越 損 金	2,666,218円	既往年度に於ける損失金繰入額		
棚 卸 在 庫 高	900,000円	既往刊行図書残部時国家文書他20種約100セット		
負 債 之 部				
元 受 金	5,858,749円	運営資金として公益部より元受		
預 り 受 金	1,361,500円	昭和45年1月~3月 源泉所得税		
仮 受 金	1,500円	刀禰氏論集抜刷代		

以上

昭昭45年度

損益金処分

昭和46年8月31日現在

公 益 部			
当期益金	4,533,108円		
処 分			
出版準備積立金へ繰入		300,000円	
積立金へ繰入		4,233,108円	
計		1,129,822円	
差引残額なし			

収 益 部

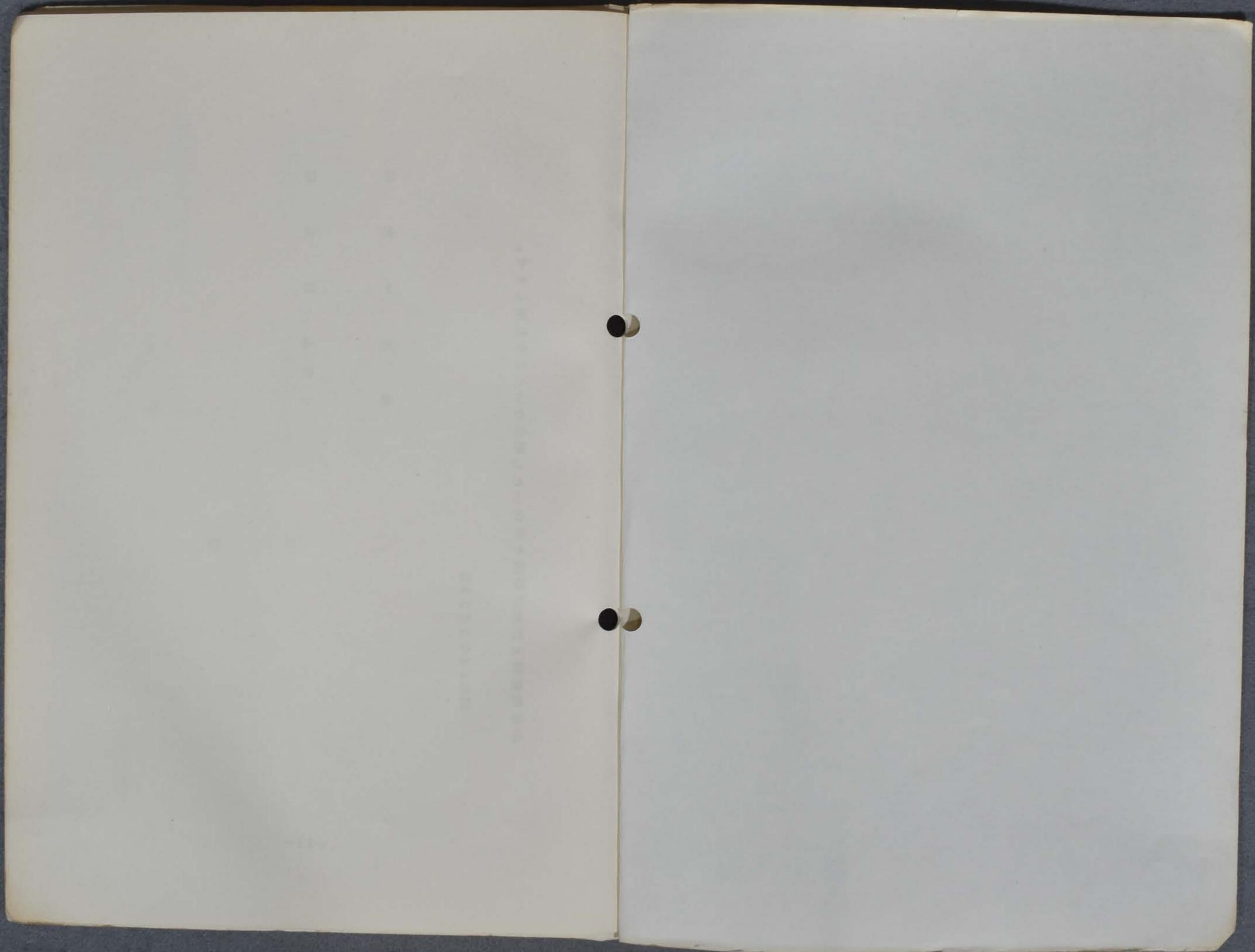
当期損失金	1,846,981円	
繰越損金に繰入		1,846,981円
差引残額なし		

決算報告書と出納諸帳簿を照合いたし相違ないことを証明します。

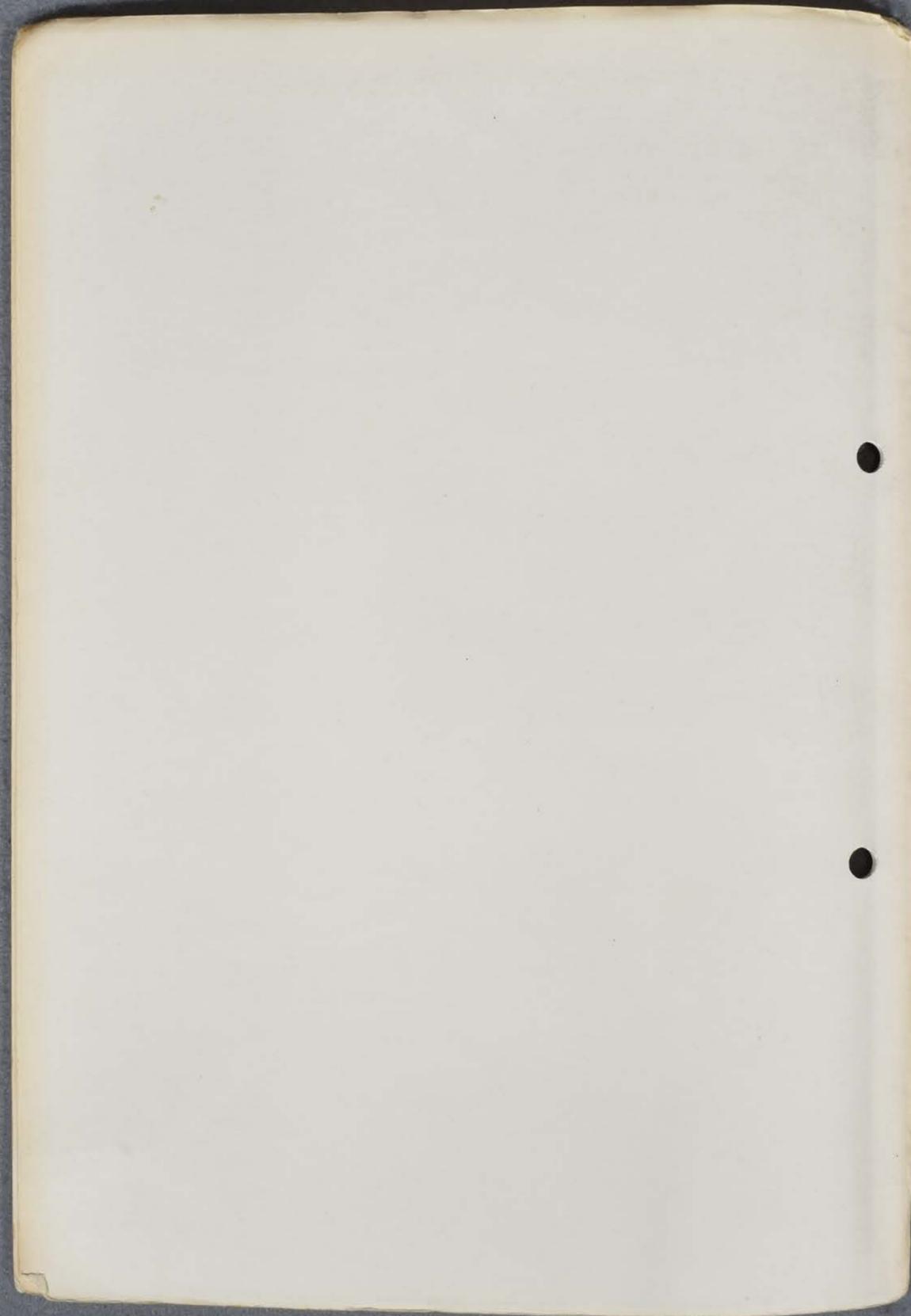
昭和46年5月25日

高 木 一 夫	印
小 宮 山 若 木	印

956-16



956-16



956-6

昭和46年度

事業計画
収支予算書

財団法人 日本常民文化研究所

(一) 事業計画

昭和46年度は、「民具辞典」のしめくりをつけること、定期の編纂刊行としては、民具論集、民具マンスリー、常民文化叢書の編集をひきつづき行い。今年度以降は、とくに地方郷土博物館所蔵民具の「資料化」を積極的に進めていく。なお郷土博物館をとおしての、民具研究の組織化は本研究所に課せられた役割であろう。

I 「民具辞典」の編纂、「民具論集」「民具マンスリー」の編纂刊行

民具辞典は、800項目のうち、約5分の1の原稿が集まったが、残り分を年度内に完成させる。収載写真、図版の選定、作成は一部を始めているが、平行的に進めていく。

「民具マンスリー」は、4巻となったが、本年度は、郷土博物館を主軸としてとりあげる。地方博物館は、民具の収集、所蔵、展示について大きな役割を果しつつある。これを充実させ、さらに民具に関する調査研究の拠点となりうるよう、本誌をとおして推進をはかっていく。

「民具論集」は3集の編纂を終ったが、刊行は46年度にかかる。民具研究の本格論文集として、一応マンスリーとともにセットとして定着したように思われる。今後とも、方法論の検討、民具の地域研究をはじめ、主たる研究の担い手である、地方在住研究者に発表の場を提供し、研究所の年報として継続する。

II 地方郷土博物館所蔵民具の「資料化」

民具を中心とする、研究所の事業の一つとして、地方郷土博物館の所蔵民具を対象として、その「資料化」を行なうことは、すでに緒についているが、今後は年、4館程度、1館平均500点、年間約2,000点の予定

で積極的に進めていく。このことはアチックが民具の資料センターの役割を担うことであるが、可能なところから資料の蓄積をはかっていく。なお民具博物館あるいは地方民俗学会との提携もこれからの課題となる。

昭和46年度 収 支 予 算

収入の部

区 分 項 目	予 算 額	備 考
定期預金利息	160,000	第一銀行銀座支店 50万円 協和銀行吉祥寺支店 280万円
株式配当	3,095,000	清水建設株式 5270 株 <small>注</small>
出版物売上金	800,000	
委託費	0	
寄附金	500,000	
前年度繰越金	0	
計	4,055,370	

注) 新日鉄 15万株 日新製鋼 8万株 東京電力 8千株 東京ガス 3.5万株 山一ファミリー 500口 山一公社債 1千500口 不動産銀行割引債 400万円

支出の部

区 分 項 目	予 算 額	備 考
役員給	0	
職員給	2,090,000	
交通費	144,000	交通費補助を含む
会合費	40,000	
消耗品費	80,000	
印刷費	50,000	
民具マンスリ	120,000	印刷費ほか
通信費	80,000	電話料ほか
共益費	50,000	
資料蒐集費	200,000	
調査旅費	350,000	
労賃	20,000	
租税公課	6,000	
雑費	45,870	
常民文化叢書買上	500,000	民具論集(年報)ほか
計	3,725,870	
予備費	330,000	
合計	4,055,870	

956-6

